

事業所名		児童発達支援事業所 リトルジェム			公表日		2025年 3月14日	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			・活動ごとに、机などを移動して、活動しやすい環境を整えている。 ・午前と午後で定員を5名ずつに分け、活動のスペースを確保している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		8			・ほとんどの場合、職員数:利用者さんが1:1となっているので、活動時の見守りが安心して行えていると思う。 ・机上での活動の際に1対1で指導員がついて取り組めるため、より手厚い支援が行えていると思う。 ・職員の数が適正で、細やかな療育ができていたと思う。 ・児童5名に対して職員4~6名を配置している。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		8			・おもちゃや本棚にカバーをしていたりと集中力が乱れにくい環境だと感じる。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		8			・主活動が1人1人に合わせた教材が用意されていてすごいと感じた。 ・朝礼前、昼食後、軽食後など一日に複数回清掃し、清潔な状態を保てるよう心がけている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		8			・カムダウンルームへのアクセスが容易となっており、子どもたちがさまざまに気持ちを落ち着かせることができていると思う。 ・必要に応じてパーテーションを使用し、集中して取り組めるような環境設定を行えていると思う。		
業務 改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8			・わからないことや悩みを相談しやすい環境。 ・朝礼の際に、職員全員で児童への対応や最近の様子、業務内容などを振り返り、改善に繋げている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			・毎年、評価を実施し、いただいたご意見を踏まえ、業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			・朝礼でも職員の意見が飛び交っている。 ・朝礼の際に、職員全員で意見などを聞き、業務改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			8	・第三者による外部評価は行っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8			・研修の告知は随時行い、定期的な内外での研修に参加する機会を確保している。	・午後の送迎後の時間やオンライン研修を利用して研修の機会を増やしたい。	
適切 な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			・定期的に職員間で話してアセスメントを行い、園や保護者の方からも情報交換を行ったもとで、計画書を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			・更新の度に検討会議を行い、全職員で情報共有や意見交換をしながら計画書を作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			・更新の度に会議を行い、情報共有や意見交換をしながらより良い支援になるよう心がけている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			・定期的に職員間で話してアセスメントを行い、園や保護者の方からも情報交換を行っている。アセスメントツールも定期的に利用している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2		・机上活動、運動、工作など、複数人で話し合いながら立案をしている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちからのリクエスト(ランニング・お散歩など)対応されていてとても良いと思う。 幅広く活動を用意している。スモールステップで取り組んでいき、成功体験を重ねていくことを大切にしている。 基本的にはあらかじめ立案された活動を行っているが、その日の子ども達の様子や要望などに応じて、臨機応変に対応している。 運動は季節や行事、利用者の状態などに応じてふさわしいものにするなどしている。 机上活動は月ごとに毎日違うものを計画して準備して 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の幅を広げるために職員間での情報の共有、交換を今以上に積極的に行えればと思う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	運動、机上ともに、個別活動と集団活動を組み合わせて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 朝礼で打ち合わせなどを行っている。 始まりの会や活動の際の担当者も固定しないようにまんべんなく割り振り、連携して支援している。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		翌日の朝礼時に前日の振り返りと改善点を話し合っているが、必要な場合は当日にも行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		毎日ケア記録をとり、検証、改善に役立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		モニタリングの内容を職員間で共有し、適切に見直しを行っている。	モニタリングや放課後デイへの移行支援など3月に予定がたくさん入っていて、担当の職員は大変だろうと思った。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	3	園や小学校と定期的に情報交換を行ったりして連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		就園や併用される場合は、就園先などと話し合いや情報交換を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 就学される場合は、就学先と話し合いや情報交換を行っている。 幼稚園・保育園と連携して就学支援シートを作成したり、放課後等デイサービスとの情報交換も行っている。 保護者の方のご希望があれば、入学前に保護者とともに小学校へ出向き、見学や相談、情報提供を行っている。 	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	3	定期的に助言を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	地域の公園や子ども文化会館などで交流する機会がある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		HUGや電話、面談時に情報共有を行っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> 保護者が知りたい事柄や有益な事柄に関して資料を作り、配付している。 半年ごとに保護者会を行い、就学やABAについてのなどの研修を行っている。保護者の困りごとなどを聞き、アドバイスを行っている。 		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			・必ず面談を行い、説明を行って同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			・できる限り対応をしている。 ・定期的に保護者会を行い、相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			・定期的に保護者会や親子（きょうだい含む）レクリエーションを行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			・できる限り対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8			・SNSはFacebookやInstagramがある。 ・HUGの活動記録、紙面でのお便り、SNSで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			・活動で写真を自身のスマホで撮ることもあるが、当日中に削除している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6		・地域のどんどこなどに毎年参加させてもらっている。	・利用者の方の個人情報の観点からも、完全に地域に開かれた事業運営をするのは難しいと感じている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	4	1	・服薬、てんかんについては事前に確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	2	4	・保護者からの指示に従っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	5			・緊急時のフローチャートなど、わかりやすい物を保護者の方にもお知らせする予定。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			・ファイリングし、いつでも閲覧可能な場所に保管してある。事例が起こる度に職員と共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			・定期的に虐待について話し合いをするとともに、研修を実施し、事業所内での情報共有を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			・契約時や初回支援計画書作成時、その後も必要に応じて説明を行い、保護者の了解を得て支援計画に記載している。		